

平成25年度第3回 高砂市スポーツ推進計画検討会議

平成25年12月10日(火) 19時00分高砂市スポーツ推進計画検討会議を高砂市役所南庁舎2階会議室2において開会

出席委員	議長	森田 啓之	委員	加茂 朋之
	副議長	藤原 良文	委員	松陰 英人
	委員	砂川健次郎	委員	佐藤 章徳
	委員	鎌谷 正士	委員	山田 みえ
	委員	水王 征子	委員	中村 香織
	委員	池田 政隆	委員	島本 卓

出席事務局職員

健康文化部長	橋本 保正
健康文化部長	猪子 真一
くらしと文化室長	
健康文化部くらしと文化室文化スポーツ課長	東野 哲也
健康文化部くらしと文化室文化スポーツ課主幹	福原 裕子
健康文化部くらしと文化室文化スポーツ課係長	前川 吉也

協議事項

- 1 開 会
- 2 あ い さ つ
- 3 議 題
グループ協議(SWOT分析)を踏まえて
高砂市のスポーツはどう進むべきか
- 4 そ の 他
(1) 今後のスケジュールについて
(2) 次回開催予定日
平成26年 月 日() 19:00～
- 5 閉 会

(午後 7時00分 開会)

○事務局

(配付資料確認)

それでは、定刻を過ぎておりますので、ただいまより第3回高砂市スポーツ推進計画検討会議を開会いたします。

開会に先立ちまして、当会議の公開についてですが、高砂市スポーツ推進計画検討会議の運営に関する規定に基づき、公開とさせていただきます。

ただし、傍聴希望者は本日はおりませんので、よろしくお願いいたします。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。

では、次第により進行いたしますので、よろしくお願いいたします。

では、開会に当たりまして、まず議長よりごあいさつをお願いいたします。

○議長

皆さん、こんばんは。

今日で3回目になります。こととしては最後になりますが、前回グループで協議いただいたことを中心に、今日はそれを見ながら、いろんな角度からご議論をいただき、年明けの会議のネタづくりみたいなどころをしていきたいと思っております。1時間半ぐらいで終わればと思っておりますので、ご協力のほうよろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。

本日の会議は、出席が11名で、もう1名は遅くなるという連絡が入っておりますので、委員につきましては30分ほどおくれて来られます。

では、今後の議事進行は議長にお願いいたします。

○議長

それでは、早速ですが、議題のほうに入りたいと思っております。

事前に配付をいただいております前回のSWOT分析を踏まえての資料があると思っております。それを踏まえまして、高砂市のスポーツはどう進むべきかということについて今日ご議論いただけたらいいかと思っております。

まず、資料1と資料1-2がお手元にあるかどうかと思うんですが、それについて、事務局のほうで教えていただけますか。

○事務局

それでは、資料1をお願いいたします。

事務局で前回行いましたグループ協議、SWOT分析をまとめさせていただきます。このグループ協議、SWOT分析を踏まえて、高砂市のスポーツはどう進むべきか、皆様からご意見をいただきたいと思います。

A3の資料1のほうには、2班に分けて出させていただきました、強み、弱みを示しております。

それと、資料1-2のほうでございます。資料1-2のほうの強みです。

外部環境といたしまして、人口が増加しているとか、スポーツ団体の意識、健康志向が多いとか、多くの企業があり、スポーツ団体が多くあるというようなことを挙げておりまして、あと環境といたしましては、自然環境が豊富である。マラソンや登山ブーム。それと指導者でございますが、スポーツクラブ21やニュースポーツを指導し、推進する指導者が大勢おられる。競技スポーツも盛んで、県もしくは全国の中でも全国レベルの方がいるということと、地域で地域のつながりがあると。スポーツクラブ21でございますが、市内10校区に、各校区にスポーツクラブがあって、安い会費で地域の交流が図られていると。気軽に参加しやすい。

それと、4ページ、弱みのほうは、今、子ども減少ということで、独居老人が多い。運動は必要と思っても、まず一步が踏み出せない。施設としては、スポーツ活動の場所が限定されている。特に競技スポーツをする場所が限定されている。それとスポーツ施設が車でしか行けないところに多い。施設が老朽化している。開催場所がなくなった。スポーツ施設が中途半端。高砂市運動公園、野球場、陸上競技場、サブグラウンドにナイター設備がない。企業が多いということで、通勤時間が長い。時間が取りにくい。それと勤めている人と地元の人との関係が希薄。企業の協力が弱い。環境といたしましては、台風や大雨に弱い。他競技同士の交流がない。それと指導者ですが、スポーツクラブのお世話をする人が少ない。それと指導後継者がいない。それと競技スポーツのほうですが、スポーツから引退すると競技から離れる傾向にある。スポーツ燃え尽き症候群が増えていると。小さいころから専門的にスポーツ活動をしていると。これによって燃え尽き症候群になっている。それとスポーツを楽しむことと競うことの分岐点をどう考えるかということ。それと地域といたしまして、学校施設使用について新規参加が難しい。それと地域のつながり、これも既存グループへの参加が難しい。それと小さい子どもを抱える母親も一緒に参加できるプログラムが少ない。それとスポーツクラブ関係ですと、仲間が固まり過ぎて入っていきにくい。リーダーになる人の人材の発掘が必要である。指導者、マネジャーになる人が少ない。これは指導者のほうでも言いましたけども、親子の参加が少ない。スポーツクラブも高齢化している。他団体との交流が不十分。講習会が少ない。種目が少ない。平日の夜の種目も増やしたい。高齢者ばかりということがスポーツクラブの弱み。それとコスト面ですが、コスト意識、無料になれている。お金はあまり使いたくない。スポーツにお金を使いたがらない。継続していくには経費、お金が必要である。市財政の見通しが悪い。市の予算が少ない。情報といたしまして、イベントや教室の情報が不足している。情報発信の低下。

それと、脅威は、ゲームや娯楽が多過ぎて、そちらのほうに行きがちだということです。

それと、子どもの数が減ってきている。他市町も同じ高齢者が多い。ゲームをして、外へ出ない。生活習慣病。景気が悪く皆が忙しい。経済状況に不安。物価が上がって税金が上がってスポーツにお金を使えないというような集計が出ております。

以上です。

○議長

資料1は1つの表に、それで、資料1-2は、それを大きい字でわかりやすくして出してる。

どちらでも見やすいほうをご覧いただいて、まず、今日の議題ですが、高砂市のスポーツはどう進むべきか。もうちょっと違う言い方をすれば、これからどこにこう手をつけてよりよくしていくのかというふうに考えていただけたらと思います。

と同時に、もう1つは、どんなこう高砂市でスポーツをしている人にかかわって、どんな場面がたくさん見たら心がいいとか、豊かになるとか、そんなふうなスポーツする具体的なこんな場が増えたらいいなというふうなことをちょっと今回の議論の中心にさせていただきたいと思います。

そのために、このSWOT分析をした中身で、括弧づけでタイトルをちょっと入れてくれているところがあると思います。人口とかスポーツ意識とか。

これは事務局のほうで、もう適宜ネーミングいただいて、ちょっと仲間分けをしています。

見ていただいたらわかると思うんですが、まず同じタイトルと言うか、中身なんだけど、片一方では強みと言うか、十分ですよっていう認識をしている方と、もう一方では、それが不十分だよっていうふうに弱みに位置づけているものもあろうかと思っています。

あるいはそれぞれこう、こういうふうに分類いただいたら、それぞれのご自身が多分こう見えているところの視点から気になるとかというふうなところがあろうかと思うので、今日まずこの資料をベースに、基本的にこれからどういうふうな高砂市のスポーツ改善と言うか、新しく、今までのことも踏まえて進めていく上で、どんな方面にこう目を向けていけばいいかというふうな共通理解をするために、それぞれのところから出てくださっていますので、もう自由に、この資料の中で気になるところ、あるいはこの認識ってどっちが正しいんでしょうみたいな話の疑問形でもいいので、もう適時お一人最低1つは何か言っていただけたらありがたいかなというふうに思います。

ちょっとしばし二、三分ちょっとこう両方見ながら考えていただけたらと思いますが。

○委員

何でもよろしいですか。

○議長

はい。

○委員

高砂市は施設、グラウンドとかが少ないんですけども、陸上競技場や野球場にしても、それで、今ある施設をさらに長い時間使うためには、やっぱり小学校であっても中学校であっても、またこのサブグラウンドであっても、ナイター施設をつくれれば、新たな施設をつくらなくても長い時間できるんで、専門にしたい人は夜を毎日使うとか、そういうことでグラウンドとか施設の少なさを解消できるのではないかなというふうに思うんですけど、予算もあるんですけども、そういうことで効率よく施設を使う。

また、学校の施設を不審者が入るとか、難しい面もあるんですけども、どのようにこう住民が管理するとかね、そういう仕組みもつくと。

また、企業とも連携して、住民に開放するするようなグラウンドとか、そういうところをしてもらえば、かなり充実した運動施設になってくるんかなというふうな気はしています。

○議長

ありがとうございます。

今、出していただいた弱みのところの右側の施設のところ、私も全部、高砂市をまだ理解してないんですが、すべての施設をあまりいい項目が挙がってないんですよ。いろんな老朽化、施設がちょっと中途半端であるとか、ナイターがないとか、意外と車でしか行けないところだと、アクセスのことも含めて、1つスポーツする環境の一番重要な部分として、施設の部分が。

それを多分、補うために、小・中学校のグラウンドの利用が何とかで補っているというふうなことではないかなと思います。

○委員

よろしいですか。

○議長

はい、どうぞ。

○委員

コストの面で、無料で参加ができるのが多い。

また、無料になれ過ぎている。高い、安い、これはどれぐらいで高い、安いが出てくるんですかね。

これはもう私の考えですけども、例えば自分がどうしても欲しいものがあるって手に入れたときに、だれかからただでもらうのと自分の身銭を切ってでも買ってするのは大事にしようが違ふと思うんですね。

私も道場で子どもに話すときに、特にお年玉をもらったときなどによく言うことな

んですけども、自分が欲しいと思うものを少しでも自分の身銭を切って出したら、やっぱり長いこと大事にする。

でも、クリスマスプレゼントとって正月前にどんと欲しい物を買ってしまったら、すぐにやっぱり飽きたりこわしてしまったりする。ある程度はお金を出さないことには、自分がする運動にしても大事にしないんじゃないかなという気がしますね。だからここで強みで安いからいいのか、それともそれが安いから弱みになってくるのか、ちょっとこう考えるとこころですね。だからどれぐらいまでなら出せて、どれぐらいなら出せなくてもうやめていくのか。その辺もちょっとこう気になるところ。

○議長

この施設の利用の料金等については、いろんな考え方があるんですが、どうでしょうかね、それぞれ各委員の方で率直なところ、どのように思われますか。どうでしょう。

○委員

内容によると思います。

ですので、例えば1時間1万円出しても惜しくない。まだそれでも安いという教室も当然あるし、500円でも高いところもある。

ただ、無料は本当によくはない、先ほど本当におっしゃったとおりでと思うんですね。

私もある企業にかかわっているんですけども、その企業は小さい会社ですけども、健康づくりのために私の教室を受けてくださっているんですが、会社からの全額補助にはしないでください、半分は個人負担です。そうすることによって意識が全然違う、変わってきますので。

ですので、そこは幾らということはないと思いますが、無料というのはいくらいい方法ではないと思います。

○議長

そうですね、どうですかね。

どうぞ。

○委員

こちらのほうのコストのところ、弱みと強みと両方に無料になれているっていうのがあって、ちょっと気になっているんですが、私の考え方からすると、無料になれているっていうことは弱みではないかなというふうに、私も実はこれを挙げさせていただいたんですが、強みに無料になれ過ぎているっていうのはちょっと。先ほど委員がおっしゃったように、やっぱり自分でそれこそ身銭を切ってと先ほどおっしゃいましたけど、それをやらないと続かないっていうのと、無料だったら逆に続かないですね。無料だったらいつ行ってもいいわ、休んでも大丈夫っていうのがあるんです。

お客さんにしてみたら、例えば体育館でやっている定期ごとのそういう健康体操教室などは一括して納入するわけなん。だから休もうが休まないでおこうが全部行っても同じ金額ですし、休んでも一緒です。一緒っていうのであれば、やっぱり一生懸命行く人もいたら、1回ぐらい休んでも全体で払っているからこう、わからないわけなんですね。その辺の料金の設定も難しいと思うんです。1回幾らって払うのと、それから一括して払ってしまうのっていうのは、それはスポーツクラブにおいてもそうなんですけど、スポーツクラブなんかでもやっぱり額が結構高くてフリーで幾らでも使っているよっていうふうになってしまうと、自動的に銀行から引き落としされてしまいましたら、あまりこう自分の目にふれませんで、幾ら何か月も休んでいる人もいたら、それこそ幽霊会員で、そういうのがあるからスポーツクラブももうかっているんですけども、そうじゃなくて毎日行く人は、例えシャワー会員とかと言っているんですけど、お風呂だけ入りに行く人も中にはいるわけなんです。

でも、自分のそれこそ本当に懐ぐあいを痛めてそういうスポーツをやろうっていう人

は、自分の体のこととか自分に意識が向いていることだと思うので、とても意識的に高いと思うわけですね。人間の価値観は全部違いますので、物を買って満足する人もいたら、自分のことにすごく興味を、体のことでも興味を持って、それでもお金を出すのも健康を買うという言い方はとても語弊があるんですけども、それでも健康でいたいって言う方もいらっしゃると思いますし、いろいろだと思うんですね。食べることにすごく興味を持って、それが生きがいという人もいると思うんですけど。だから私は病院との連携っていうのも1つの方法だと思うし、ちょっと話が長くなって申しわけないんですが、今ある施設を使うっていうこともすごく大事じゃないかなと思うので、施設の老朽化を嘆く前に、今ある物を最大限に使っていただくのはすごく大事なことだなと思うんですね。

あと、スポーツと言っても、ここにいろいろ書いてありますけれども、競技のスポーツと、もう1つは自分の健康とか自分で楽しむためのスポーツと二本立てで考えていかないといけないと思いますので、競技としてのスポーツを重気で置くのか、それとも健康志向を中心にして考えるのか、その二本立てで考えていかないと、なかなかそこにちょっとたどり着かないかなと思うんですけども、ちょっと私、資料を2つほど持ってきたんですが、この前、新聞に加古川市の市民スポーツカーニバルという、こういう記事が載っていたんですね。

先に私はこれをやりたかったので、やられてしまったと思ってすごくショックだったんですけど、あともう1つ、ここ何年間かこういう姫路市がD.O.！スポーツデーっていうのをやっていて、これもどちらも体験なんですね。

こちらのほうはスポーツクラブが恐らく主になってやっているの、エアロビクスであったりとかバランスボールであったりとか、そういうスポーツクラブがやっているようなことを割と重気にやっていて、これは姫路市の中央体育館でやっている分なんです。

こちらの市民スポーツカーニバル、加古川市のほうなんですけど、こちらのほうは競技をいろんな人に体験してもらおうっていうんで、ここに写真が出ているのは合気道なんです。合気道をやって、合気道っていったらどういうものなのかっていうのをこう、いろいろ見学してやっていただいているんですけども、こういうのもありかなと思って、最終的にはこういうところに行けたらいいなっていうのが私のすごい今、夢なんですけど、加古川市と姫路市との間に挟まれて高砂市は今、何もやってない、やってないと言ったらおかしいですけど、マラソン大会とかありますけどね、こういう総合的なスポーツカーニバルみたいなのが行く行くできたらいいなっていうので、1つちょっと提案させていただきたいなと思って資料を持ってきましたので、もしよかったらまた後でご覧になっていただきたいなと思います。

○議長

ありがとうございます。

○委員

私もちょっとその意見に賛成なんですけど、私、スポーツクラブで以前、ヴィッセル神戸の選手を呼んで、サッカー教室っていうのをやっていただいたんですけども、もうぜひプロ選手によるスポーツ教室っていうのをとにかく定期的にできたらやってほしいと言うか、やりたいというふうに思います。

なぜって言うと、やっぱり私、スポーツクラブでやったときも、神戸新聞か何かで、そのときはヴィッセル神戸がまだスタート切って間がなかったんで、向こうの宣伝もあったんでね、すべて向こう持ちでやってくれるって言うんで、私も乗ったんですけども、ああいうのを実施させてもらって思ったのが、とにかく子どもの目つきが違う。

当然、そこへ来ている大人もやっぱりプロ選手がやっぱり来ていろいろすると、非常に刺激を受けることが多いんで、よくテレビとかを見ていると、陸上競技のプロ選手が、

銀座のど真ん中で走ったりやっていますけども、高砂でそこまでできるかどうかは別に
して、定期的にプロのスポーツ選手による、そういうフェスティバルも一緒だと思うん
ですけども、何かそういうプロがやっているのをやっぱり間近で見られる機会をできるだけ
つくっていただければ、非常にこう皆のスポーツに対する目が違ってくると違うかな
という気がしています。だからぜひ予算の問題もありますけども、最近は割とそういう
あまり予算かからずに、プロ選手もボランティアで割と出てきてくれること多いんで、
探せばいっぱいありますんで、ぜひ私はやっぱりやりたいとは思っていますけども、市
全体としてね、ぜひやってもらいたいと思いますね。

○議長

もうご自由にいろいろな角度で、関連でもいいです、別角度でもいいので、こう気にな
るところ、あたりですね。

今、施設ね、あと有効利用とか、あと使用料金のこととかが逆に人間のスポーツ行動
をこう微妙にプラスにもマイナスにも働かせているっていうふうなことは、こう委員の
皆さんから出たところではないかなと。

恐らく、いわゆる生涯スポーツとか生涯学習を、かつて昭和30年ぐらいから地域に
根づかせるときに、大体、市民の活動はほとんどもう無料と。登録したらと。文化的な
活動も含めてですね。そういうふうな大体流れがもう脈々と来ているのですよね、日本
は。なので公民館を借りるのもそうだし、体育館を借りるのも、大体ちゃんとした登録
さえすれば無料と。

その一方で、やっぱり出ているように、ただっていうのが意識を無責任な使い方をし
たり、今日は人数おらんから団体で登録して、使っているけど、おらんから今日はやめ
よと言うて、結局フリーになっていたりとか、そんなふうなことがもういろんなとこで
今、課題になっていることがまず1つ事実だし、もう1つはここにも財政見直し悪し
て書いていますが、恐らく高砂市も同じなんだろうと思うんですが、すごい何兆円とか
ね、の話ではないですが、免除とか半免、全免ね、していることで、その予算が潤沢に
あるときはいいんですが、厳しくなってきたというふうなこともいろんな自治体では聞
かれます。

さらに、大体、子どもはほとんど全額免除なんですけど、よく多いんですけど、先ほど
のナイターとも絡んで、ナイター施設も大人は料金取っているところもあるんですけど、や
っぱり電気代がかかるので。

でも、子どもはさすがに取れないと。

でも、子どもにわざわざそんなナイター、毎日、週に2回も3回もせんでええやんっ
て思うんですが、ただだからね。それで時間使えないしっていうところも結構多いんです。
ほかの自治体では。そのこと自体が逆に問題に、子どものスポーツをおかしくしている
っていうふうな指摘もあったりするので、このあたりは施設、料金とか、あと先ほど出
ていました、実際にどんなふうなこうスポーツの方向を大事に重視していくかっていう、
競技とか健康とか、そのあたりがお三人の方からこう出たことかなと思いますけど、その
ほかいかがでしょうか。

○委員

いいですか。

○議長

はい、お願いします。

○委員

コストの話ですけど、コストは高いと感じたりお金をあまり使いたがらないのは、本
人のやる気と言うか、なぜスポーツをするのかっていうところにつながっていると思
います。

と言うのも、必要だと思ったら金は絶対払うと思います。だから必要がないと、何でスポーツをするのかわからない。お金もらってもやらないと思うんですよね。だからまずコストの点について、やっぱり何でこう、やんなあかんかっていうところを考えることから始める必要があるのかなと思いますね。

お金を払うと自分のモチベーションも変わるっていう話なんですけど、あくまでそれはモチベーションの中の1つだと思うんですね。

例えば、講演会にしろ何にしろ、お金を払ったからちゃんともちろん聞くようになるというのはあると思うんですけど、めっちゃめっちゃやる気のある人から取って見たら、ただにこしたことはないです、お金払っても払わなくても結局はすごい話だったら絶対に食いついて聞くはずなので。やっぱり意識の問題が大きいのかな。もちろんお金を払うっていうのを1つのモチベーションにするのはいいこと、1つの大事なことだと思うんですけど、前に聞いた話で、内発的モチベーションと外発的モチベーションっていうのがあって、簡単に言ったら、表立った理由と心の内から持つてる理由、両方あって、心の内からもうそうしたいと思っていることについては人間どうやってでもやるらしいんですよね。だからまずスポーツに関して、内発的モチベーションを上げる、そういう取り組みが必要なのかなと思います。

ちょっとまだ最初のコストの話とはずれましたけれども、どうやったらスポーツに取り組めるかという話で、すみません、話が変わるんですけども、私、小学生陸上教室っていうところでちょっとお世話させていただいているんですけども、子どもたちいっぱいいるんですけども、やる気のある子、ない子、いろいろいるんですよね。

よく見ていると、何か友達があまりいない子はこう、おとなしくて積極的に参加できなかったり、友達がいなくて楽しくないからやらないと。それは多分、スポーツクラブにしても大人のスポーツの集まりでも同じだと思うんですよね。大人でもやっぱり1人はさみしいですし、だれかと一緒になったら続くっていうのはあると思うんですけども、スポーツクラブ、僕、全然行ったことないんで、どういう状況かわかんないんですけど、やっぱり1人で参加するのがやっぱりちょっと心細いっていうのはあるんじゃないかなと。その子どもたちを見ていて思いました。多分同じだと思うので、同じようにスポーツをやりに行くときに、本当にやる気がある人はいいんですけども、ちょっとやらないとだめだと思っているんだけどっていう人にとっては何かほかのモチベーションの助けも必要なのかなと。そういう意味でいろいろとこうモチベーションを上げる手段は考えていかないとだめなのかなと思いました。

○議長

今のでちょっと私の質問なんですけど、普通、一般的には子どもたち自分が好きで入っているけど、でもその中にもう最初からサッカーをしたいって思う子もいるし、友達が行くから行くっていう子もね、大体その2パターンだと思うんですが。

○委員

親が行けって言うから。

○議長

やっぱりそういう子も多いんだ。

○委員

意外と多いような気がしますね。

○議長

だから仕方なしに来ていると。

友達がそんなにいるわけじゃなく、積極的にもないからなじめず。なるほど。

○委員

ここで中に友達がいると、無理やり親からやらされてきたはずなのに、いつの間にか

熱中したりってということもあると思うんですよね。だからそれも1つの、動機づけの1つだとは思うんですよね。無理やりっていうのも。

○議長

でも、そうですね、大人も、今1人では心細いって言ってはりましたが、多分そのことはありますね。クラブへの参加とか、スポーツへのかかわりでも、だれかに誘われてとかというふうなところはすごい重要かもしれませんね。

そのほかいかがでしょうか。

○委員

よろしいですか。

○議長

はい。

○委員

委員さんがちょっと言われていた中で、プロの選手をっていうことは、やっぱりプロの方を呼んだら見に行った側は感動があるんですよね。だからいろんなスポーツの中でやっぱり自分は野球が好きだ、自分はサッカーが好きだ、陸上が好きだってやっぱりいろいろありますから、その人が思っている種目の、自分が思っている種目のものがどっかに、今日、高砂のどっかに来るとなれば、観に行ったら感動を覚えたら、おれもできると違うかなと思ってこう食いついていく、そういうきっかけと言うんですか、そういうものも与えるようなものを推進計画の中ではやっぱり取り入れていくべきかなという気がしますね。だから幾らサッカーの好きな人に、野球に行こうと言ったって絶対無理でしょうしね。

○委員

この間、スポーツ推進委員の研修が明石でありました。そこで講師に石川県のほうで剣道の先生をされていて、中学校の先生やめて、総合型地域スポーツクラブ、NPOを取って成功されています。それでその講師の先生いわく、どういう運営の仕方をやっておられるか。近くに大学があるんですよね。そして専門の大学生を呼んで、指導にあたる。そういうことによって結局、子どもたちがそこで学ぶことができる。結局、費用は安くつく、そしてきちっとしたことを教えてもらえる。

今、委員が言われていたように、陸上教室の中でも、今、高砂市でちょっと問題になっておるなというふうに僕も感じているのが、いわゆる走らせて走らせて、兵庫県でも1番を取るような子がたくさん出ているわけです。だけどむちゃくちゃ走らせて詰め込んでいるわけです。その子たちが中学校行って伸びるかと言うと、伸びないんです。むちゃくちゃ走らせてしまうんです。限度までやらせてしまうので。

だから、それが正しい方向かどうか。やっぱり指導についても正しく指導してあげて、親は1番になったからといって喜んでしまうわけ。そうじゃないと、体をこわしてしまっている。小学校の間に野球ひじと言って、まだ骨が成長している間にどんどん投げさせたら、もうひじをこわしてしまふ、肩もこわしてしまふわけね。それをわかってさせているのと一緒です。走らせて走らせて走らせて、まだ体ができ上がってないのに。そういう指導をされている地域があるわけです。

だから、今、小学校でも、はっきりそう思っていると思います。だけど言えないという部分があつて。

ですから、市を挙げて、きちっとした指導というものを、今、先ほど言われていたプロの、本当のこういうふうな育ててあげていただきたいということをきちっと教えて、指導者にも指導してあげてほしいなというふうに私は思いますね。そこが必要だと思います。

体育協会の指導者の、競技別にはいろいろ研修もあると思いますけどね、高砂市とし

て、子どもたちを預かって指導していくに当たって、何を教えていくのか。

ですから、委員がやられておる少林寺拳法にしても礼儀作法から学んでいくと思うんですね。おはようございます、お世話になります、ありがとうございます、ちゃんとと言える子ども。そこがまず大事ですね。社会人になってもそれが役立つ。わががどうのこうの、役立たないからね。それ使ったら暴力になるからね。

ですから、人間としてのどうあるべきかということ。そういうことを、しっかりと教えてあげてほしい。

それで、先ほどから出ている施設について。高砂市の施設は本当に陸上競技場、野球場、すべて老朽化しています。今は陸上競技場もちょっと工事が入りますが。三木市に行ったら、もうすばらしい競技場ばかりです。加古川の陸上競技場は全天候型で、全然違うからね。

すべてそういう環境下の中で、やはり子どもたちはずっと成長していくわけですけども、その成長過程の中で何を学ぶかというのを、やっぱりそこをちゃんと市としての理念をきちっと持って学校教育の中にも、中学校教育の中にもそれを反映させていってもらえるというふうにしていったら、親が望んでおるところの子どもが育っていくのではないかなというふうに思いますね。

○議長

次、お願いします。

○委員

高砂市のスポーツをどのように推進するかということで、皆さんからいろいろな角度から意見を聞かせていただいて、ほとんど私もそうだなと思うことばかりです。

スポーツの施設が古いとか、ないとか、少ないとか言っても、これはもうできるところから始めていかないといけないだろうし、現実に見ていまして、朝はまだ日が昇るの遅いですから、暗いうちから各個人がウオーキングされていたりとか、二、三人単位で歩いていたりとか、夕方も同じような光景が見られます。

子どもにしても、みんなで集まって何かの競技をする、野球とかが熱心です、高砂市では。女子だったらソフトボールを小学校などでしていますが。それ以外でも、やはり外で遊ぶ機会が少なくなったというふうなことで、公園を見ましても、あまり昔みたいに遊んでいる姿は、なくなったと思います。そのあたりから安全面も考えないといけないだろうし、委員が資料を持ってこられたように、やっぱりスポーツをどのように広げていくか、啓発と言いますか、宣伝ですね、それが大事だと思います。

高砂市も以前レクリエーション大会って年に1回、各体育協会の団体が参加したり、地域、小学校、いろんなところから出て一堂に会して実施していたのですが、いつの間にか予算的なこともあってなくなったというのが現状で、それ同じようなことをやりよったと思うんです。どこの市でもね。それもできる範囲で何とか啓発につなげるようなことと、やっぱり1つにこのスポーツ、スポーツと言うのがね、スポーツになじみのない人というのは、スポーツと言うたらちょっと重たいような言葉にとらえる、苦手なものにとってはあるので、やっぱりこのチラシにもあるように、この健康という名前が入ったら、このスポーツを通じて健康増進をしていき、生きがいをつくり、仲間をつくって、その延長線上で地域づくりがあらうかと思っています。それが高砂市として進めていく、この全国的に推進計画を立てる必要性はそこだと思うんです。

プールも夏しかあいてないのに、年中泳げるようにしてほしい、来年からと言っても無理な話でしょうし、そのあたりでどのような方向がいいのか、もう一気にはできないと思うんです。

少年の陸上の指導者の方もおられたり、いろんな指導者がおられますけども、やっぱりどこでだれがどんなことをしよるかというのをやっぱりわかってないですから、その

あたりで、あんなところであるなら、それなら朝歩いているなら家、近所だから寄せてもらおうかというふうなところから始めても輪が広がっていくでしょうし、そのようなネットワークづくりも必要かと思いました。

○議長

ありがとうございます。

○委員

すみません、いいですか。

○議長

はい、どうぞ。

○委員

本当におっしゃったとおりだと思ひまして、委員が持ってこられた、こういう例えば年に1回とか、こういうフェスティバルもいいと思うんですが、とりあえずだけですよね。

ですので、本当は定期的に週何回あればいいんですけども、とりあえず月1でもそこへ行けば何かやっているということがだんだんこう周知して行って、やっぱり見る、人のことを見ると、人って変わるんですね。有酸素運動、ウォーキングとかっていうのは見ますよね、人が歩いているのをね。見たことによって触発されるということがすごく大きくて、ですのでここに月1何かやっていて、ここに行ったら何かできるらしい、体力測定できるらしいとか、そういう考えが広まると、それを聞いて、気軽に参加できるのだったらちょっと行ってみようかなって人がじわじわ増えると、場所も増やすことができますよね。

ですから、まず何か1つでもいいから、1箇所でもいいから、そういう必ずあるって場所をつくるべきではないかなと思います。すべてのこと、行きにくいとか、そういういろんなことあると思いますけど、すべてのことは無理なので、とりあえず1つ何かそういうところがあればきっかけにはなるかなと思います。

○委員

ネットワークというのは大変必要だなと思います。家にいるとわからないで、どこで何をしているかということがわからない人もたくさんいると思うんです。

それで、スポーツというのができない、苦手な方でも、できるような雰囲気づくりも必要ですし、機会を与えるということも必要だと思うんですね。

私もこれ2年、日本チャンピオンを講習会しました。体育館で。神奈川から来ていただけなんですけど、実は業者さんが出していただいて無料なんです。ことしもう一度呼ぼうと思っているけど、2連覇をして3連覇を頑張りますとって3連覇されたんです、このたびマスターズで。でしたら、やはりそういう機会を与えますと、一般の方も高齢の人も、もちろん小学生、中学生、目の輝きが違うんですね。それでやはり年配の方でもそれなりに教えていただくし、指導者の私らも教えていただいていますので、希望が持てて楽しんでいるんです。それで勝つためじゃなく、競技スポーツじゃなく、楽しむため、健康づくり、やはり目標を持って継続するってということが非常に大事なことだと思うので、そういうことをこの推進計画のほうで考えて、継続をできるってということがやはり大切で、健康につながっていくんじゃないかなと思います。

○議長

ありがとうございます。

○委員

そういう機会を市で総合体育館だけでやるんじゃなくって、できれば例えば小学校とか中学校とかで各地域で年間通してこう、やってもらえれば、目にふれる機会も増えますし、行きやすいと思います。

それから、今はまだそういうある場所で年に1回ぐらいですけど、それをそれぞれが年1回、各小学校区なり中学校区でやれば、機会も増えるので、ぜひそういうふうにやりたいなって言うかね、やってもらいたいなっていうような気がしますね。

○委員

年1回ってというのは、後で気づく人って結構多いんですよ。もう終わったから。じゃあ次の年までそのモチベーションが継続するかって言うと、すっかり忘れて、また忘れていた、こんないのがあったのに参加したかったっていう熱が冷えないうちに次の機会が、例えば1カ月先ぐらいにあるとまた行きやすいかなと思います。

○委員

委員が言われるのは大変いいことだと思うんですけども、そういうふうに地域、地域におろしていくと言うと、だれがするのかということになって、それが大層なことと皆、負担に感じているわけなんですね。地域、自治会にお願いする、スポーツクラブもしかりです。そしたらだれが役員をするのか、月一回ここでしますので、あなたたち運営してくださいというふうになりますね。そこがネックなので、私先ほど言いましたように、太極拳とか朝やっている方がいます。そういうことを地域の人から情報として集めて、こんなところにある、紹介してもよろしいかというところから始めていって、それがだんだん盛り上がってきたら、あと委員が言われるようなこととか、委員が言われるようなことを一遍に大きくやるとかね、そういうふうなことを考えていかないと、本当にもう学校もいろんなところから、県から頼まれ、市から頼まれ、自治会などずっとです。学校から頼みに行くのはよくわかります。

委員からラジオ体操の復活と言うか、小学校は夏休みしかしませんけども、神戸とかある地域では、もう年中ラジオ体操をやっている地域もあるのも聞きましたしね、やっぱり草の根的と言いますがね、もう身近な本当に体力づくりというところから発展させていけるような方向でこの計画をつくれればなと思いますね。

○委員

世話する人が負担にかかったら継続できないと思いますね。だからやはりだれでもが参加できて楽しくできてという機会を与えるってすることが一番じゃないかなと思いますね。

○委員

世話する人はやっぱり自分も楽しまないと続かないわけですから、だから逆に言えば、進んで自分もやりたいっていうふうに持っていかないといけないわけですよ。だから私たちもいろんな世話をさせてもらっていますけども、基本的には自分がやりたいからやっている。それがたまたま皆さんのお世話になっているという、そういうふうになれば一番いいかなという気がしますけどね。

○委員

これは最終段階かなっていうふうに思っているんですけど、最終段階って言うか、こういうふうなことが行く行くはできたらいいんですけど、それこそ最初は草の根運動みたいな感じで小さい集まりからいろいろこう広がっていったらいいなっていうふうに思っているんで、まずスポーツイコールしんどいとか辛いとかっていう意識を払拭していただくためにも、ここにありますように、機会でスポーツへの関心は高いんだけど、まず一步が踏み出せないっていう方がたくさんいらっしゃると思うんですよ。選挙で言ったら浮動票みたいな感じですけど、ちょっと後ろから後押ししてあげるだけで一步が踏み出せる方はたくさんいると思うんです。その人たちにはやっぱりこう口コミってというのは物すごく大きくて、幾らこう広報でやりましょう、やりましょうって言っても、仲間がいないと行けない、知っている人がいないと行けないっていうことが多いですから、一步を踏み出すような雰囲気づくりとか口コミとかってというのがすごくあったらいいな

って思います。

それと、高砂市はすぐこの弱みのところに高齢者ばかりっていうのがあるんです。スポーツクラブのところに。

高齢者ばかりって書いてあるんですが、実は高齢者をあなどるなという感じがしまして、高齢者の方はすごいパワーがありますので、その方たちがいろんな団体を立ち上げて、例えばグラウンドゴルフなんかでも立ち上げて地域のところから市の大きな団体にしていったりとかっていうことがありますので、高齢者の人が弱いとか、そういう悪いイメージを持たれないように、その人たちを上手にうまく持ち上げていけばいい強みになって追い風になっていると思います。

○委員

高齢者ばかりを強みに中に入れといて。

○委員

そう、追い風にはなっていくとは思うんですね、その方たち。

○委員

いや、本当元気ですよ。

○委員

お元気です。とてもお元気。私は高齢者の方。

○委員

私、身を持って思っています。

やっている仲間でも、やはりこの人を目標にいつまでって、実際、本当に今、最小9名の方が頑張ってきています。

でも、やっぱりやはり元気です。生きがいを感じてスポーツをするという楽しみっていうのがないとなかなか皆さんできないと思いますね。その機会をどうしたらいいかということをやっぴり考えていくべきじゃないかなと思います。

○委員

高齢者の方のほうが続けられることが多いと思うんですね。やっぱり身にしみるところがあるので、ご自分が病気されたりとかして運動してないといけないなっていう、運動の必要性っていうのをすごく感じられているのは高齢者の方が多いので、高齢者の方はなかなかあなどれないと思うんですね。

それと、もう1つ、小さい子どもさんのことなんですけど、ちょっと気になったのは、親御さんが、学業の成績につながらないことを親がさせないっていう、5ページのところなんですけど、地域のところで、学業の成績につながらないことを親がさせないっていうふうに書いてあったりとか、あとスポーツクラブ21のところ、そこまで見たんですけど、親が子守がわりに子どもを押し出しているとかっていうの。

○委員

現実そのとおりなんです。

○委員

とかね、そうやって子どもをわざわざこう外に出して、親は自分たちの時間を楽しんでいるとかっていうのがすごく気になったのと、あと陸上教室なんか親御さんはどうなんでしょうか。ついてきて。

○委員

ついてきて、家に帰って。

○委員

家に帰って。

○委員

僕はこれ、ありだと思うんですね。親も絶対自分の時間は必要だと思っていますの

で、むしろそうやってもらっていいかなと。いや、すごい弟とか妹とか幼稚園児とかつれてくる親もいて、明らかに子守させられているなっていうのは思うんですけど、それはそれでいいかなと。

○委員

それで一緒に楽しむとか、親子の時間を楽しむっていうことはできないんでしょうか。

○委員

子ども同士で楽しんでますからね、別にそれは私も一緒です、それで私もいいと思っ
ていますけどね。それがいかんとは思ってないんですけども、そういう子どもも結構
多いのは事実なんですね。

○委員

そういう日をつくってもいいかもしれないですね。勝手にこんなん言うていいかわか
ないんですけど、もう陸上教室の月に1回から半期に1回ぐらいはお父さん、お母さ
んも一緒に参加してください。

○委員

何かチャンス、そこからもやっぱり一歩踏み出せるチャンスがあるのではないか。せ
っかく子どもさんを通じてのそういう機会があるので、親子で何かできるっていう機会
があってもいいかな。それも1つの機会ではないかなっていうふうに思いますね。

○委員

親がスポーツしているから子どもも影響されたというようなこともあるし、反対もあ
りますね。

この間も土曜日、陸上教室でお知り合いが指導する係なんですけども、子ども、これ
僕の子なんですと言っていたことがあるんでね。子どもがしていて、そしたらお父さん
もちょっと走ってみよか、一緒に走ってみよか。お母さんもという場面もあるかと思
います。それが競技スポーツでずっとレベルが高くなっていったら、そこまではできな
いんですけども、そこはまた補助的な、チームのお世話とかという形でスポーツにはかか
われるというようなことはあろうかと思えますし。

大体どの人たちも時間が自由にあるわけでもないし、ある人はいっぱいあるし、高齢
者の方はあの人にまた会いたいとか、話し相手が欲しいとかという目的もありますし、
それを何か押しつけるような感じで、どんな仕組みをつくっても長続きしないだろうか
ら、そのあたりもよく考えた仕組みづくりが必要かなと思います。

○委員

いいですか。

○議長

はい。

○委員

子どもと高齢者の話が出ましたけど、子どもと高齢者は比較的スポーツをやっている
んですよね。だから、ほっといても継続すると思うんですけど、スポーツをする人口を
上げるためには一番、中間層、スポーツクラブでもやっぱり一番いないって言うている
層の底上げというか、その人たちが何でスポーツをしないとだめかっていう、そういう
気持ちにさせるための何か策が必要なのかなと。

さっき委員が言われた中で、今、思いついたんですけど、体力測定っていう話があり
ましたけど、体力測定をすると記録が残りますよね。そうすると次にはかったときに記
録が上がっていたらうれしいと。人って数字見て明らかにわかる、自分が向上したもの
があると多分すごいうれしいんですよ。それが多分、大きいモチベーションになると
思うので、体力測定っていうのをやってみたらどうかかと。

○委員

スポーツテストを兵庫県がしていました。

○委員

私は健康づくりにかかわっていますので、よく話をするんですが、記録が次に上がってないといけないという、それも上がるとうれしい、それもわかるんですけど、そうじゃなくて、はかることによって今の自分がわかる。それがすごく重要なことなので、測定することはすごくとってもいいことだと思います。

○委員

現状を知ってもらってというのもすごく大事ですよ。

○委員

私は競技者側の考え方に偏っているかもしれないと思うんですけど、やっぱり人間ってこう向上した生き物だと。うちの会社で何か外部から人が来て測定するっていうのを一時やっていたんです。そしたらふだん運動しないような人もとりあえず参加して、続けますよね。次の年に参加して、上がった、下がった、しまった下がった、よし頑張ろうって言って、走り始めたりした人もいたんですよ。記録とかにこだわるとよくないとは言いますが、自分の記録を伸ばすっていうのはすごい、いいモチベーションだと思うんですよ。

ただ、先ほど運営の話もありましたけど、例えば外部に委託するとすると、とてもお金がかかったりとか、そういう面もあるんで、初回無料にして2回目からお金を払ってもらうとか、そういうのはどうか。とっつきやすさもそうですし、継続してやるのもそうですし、それを運営として途中で疲れ切らないための工夫も全部必要になると思うんですけども、今、言った体力測定にして、途中からお金を取って行うのは意外といけるんじゃないかなと思いましたね。

○議長

ありがとうございます。

○委員

ただ、私もスポーツクラブで本格的な体力測定をしたことがあるんですけど、非常に疲れますね。時間でこう走って、あっち行ったりこっち行ったりね。だから体力測定をするのなら、できるだけ簡単なものにしてあげないと、まず疲れてしまい、続かない。

○委員

いろんなバージョンがあります。疲れにくいものもあります。

○議長

どうですか。もうどんな角度でもいいので。

○委員

障がい者スポーツの分野からですけども、やっぱり他市の方とかからよくお聞きするのは、高砂市で屋根のついた駐車場があるのかって聞かれることが多々あります。学校施設であつたり総合体育館であつてもそうなんです。文化会館もそうなんですけども、駐車場、障がい者用のスペースがあつても屋根がないっていうところで、もう車いすの方が来ても雨の場合であればぬれてしまうということで、ほとんど皆さんが車いすの方はもう西播磨であつたり、玉津の神戸方面へ行ってしまふっていうのが現状だと思います。

あと、イベントとかの教室の情報の不足っていうのがあると思うんですけども、今回8月に僕もちょっと主催でイベントさせてもらったんですけども、教育委員会さんとかも皆さん後援してもらって、ビラを1,000枚刷りました。それでそのうちに定員を150人っていう形にしたんですけども、予想を上回って170名程度、応募がありました。それで会場、当日ちょっと大雨で台風関係があつて、でもそれでも100人来ていただきました。その来た方に聞いてみると、何で知ったのかって聞いたら、だれかが

言っていたってということで、そのとき車いすバスケットという競技をやったんですけども、そのときにバスケットはやったことあるけど、車いすに乗ってバスケットはしたことがないってところで、すごく応募の数が多かったっていうのもあったんですけども、何よりも子どもさんも楽しんでくれていたんですけども、お母さん方がちょっと乗ってみたい、お父さん方も乗ってみたいという思いもあって来られていたっていうのも現状あると思います。

その中に、当日プロのバスケット選手も会場に呼びまして、障がい者スポーツの情報のおくれであったりとか、そういったところは、ここは先ほど委員が言われたように、プロの方とも通じて、僕も情報発信っていう場を設けています。

その中に、やはりプロの方が来られて、もう現場を見ると、やっぱり意外にテレビで見る方はすごくバスケットが上手、意外に車いす乗った小学生ぐらいと同じぐらいしかボールが扱えなかったとか、逆にそういうのが父兄の方や子どもさんたちには受けているような感じも見受けられるんですけども、なかなか障がい者スポーツっていうくくりで縛ってしまうと、なかなか学校であっても福祉学習であったりとか、そういう体験はあるんですけども、なかなか車いすに乗ってスポーツをするっていう、そういうものの授業はやっぱりないってところで、やっぱりその会場に来られてたお母さん方は、こういうような授業をしてほしいっていう要望はその後たくさん私のメールのほうにすごく文書が来まして、来年度もやってほしいということも依頼もあったんですけども、その中に本当に安全なのかっていうことも求められたのも正直、現状あります。やっぱり乗り物に乗るっていうことで、子どもが例えば指が挟まるんじゃないかとか、そういったところを、心配なところをカバーできるように、バスケットの全日本とかの強化メンバーで選ばれるような方々の多いチームを依頼して、そこに来てもらって、最初から指導してもらって、その中にプロの選手にも体験をしてもらうことによって、そういったところで子どもたちの安心っていうところもできたのかなというふうに思いました。

その中に、やっぱり施設っていうところで、対戦する場所はとても限られてしまうっていうのが現状です。雨が降ったらそこではもう身体障がい者の野球であったりとか、そういったものは一切開催ができないっていうことがあったり、車いすに乗っているっていうだけで当日もうほとんどキャンセルしないといけない場合があります。それはなぜかと言うと、施設に屋根がないっていうところで体調を崩すっていうところで、どうしても施設側も断られてしまうのが現状だと思います。そこを貸して、もし体調が悪くなったときに、こっちはどういうふうに対応したらいいのかっていうこともやっぱりあったのも現実ですけども、その中に皆さんが駐車場とか出入りするところの整備っていうところも、もう一度見直してもらって、一般の方だけじゃなく、例えば車いすに乗っている方々もより安心して使えるものであったり、そこに例えば許可を得て屋根のついたところで一般の方も荷物の運搬することも可能だと思うんですけども、あくまでも施設に行ってみたら車いすのそこ大半がもう埋まってしまっています。そうなればやっぱりどンドン車いすの方、離れていってしまうという現状なので、そういったところもしっかりとした、ここはもう車いすの方が使うっていうところであったりとか、そういったところの情報っていうものもしっかりと整備していく上で、環境も整えていかなければ、ちょっと私たちも皆さんのところに行きたくてもなかなか行けないのが現状だというふうに思いました。

以上です。

○議長

ありがとうございます。

何かお気づきの点、気になる点、何でもいいので。

○委員

今、県のほうで体力アップ事業というのがありまして、この間器械運動の専門家の方に小学生2年生、4年生、5年生対象に跳び箱運動をしていただいたんです。もちろん私たちが教育のプロとして指導はしなくてはならないんですけども、やっぱり専門としての指導、技術とか、そういうところは非常に私たちが勉強にまた新たになりましたし、何よりスポーツ教室をされている方なんですけれども、体を無駄なく動かせる運動とか、限られた45分の時間の中で本当に運動しているな、ただ走り回しているだけではなくて、跳び箱に関する運動をさせてくださっていた。

あと、子どもたちの向上心と言いますか、それがまたやってみたって、怖いだけじゃなくって、やれたっていうことの自信もありますし、そういう活用ってというのは非常にありがたかったんです。

高砂市のほうでもそれぞれ専門家の方が陸上などでもたくさんおられますし、そういう方々でこう難しいと思っていたスポーツでも楽しいというような、そういう体験をどんどん入れていけたらなというのは思います。本当に実感したところでございます。

○議長

ありがとうございます。

○委員

もう1点だけよろしいですか。

○議長

どうぞ。

○委員

高砂マラソン、私もこの二、三年参加しているわけなんですけれども、ほかの何億円とか何千万円とか使うマラソンの大会と違って、もう手づくり感満載のマラソンなんですけどね、このマラソンを高砂市のスポーツイベント、いろんなこの競技の集まる場というふうな位置づけにしまして、年1回そこではスポーツ関係者が集まると。

それで、例えば今、加古川河川敷スタートで加古川河川敷に戻っているんですけども、競技場をスタートして戻ってくるような形とか、そこには各競技のそれぞれクラブのスポーツの紹介イベントを各自それぞれ体育館ですとかというようにすることということで、市民挙げて、その日はいろんなスポーツの紹介の日にするとかという形で、それもボランティア中心で、市も予算も挙げてもらわないといけないとは思いますが、そういう形で年1回は市民こそってそこに寄ると。そこでいろんなスポーツの体験ができるというようなイベントの日みたいな、体育の日でもいいですけど、そういう形で高砂マラソンを中心にそんな形ができないかなと。皆さんのいろんな話を聞かせてもらって、紹介する、何をどこでいついつ何時にうちにはしていますよみたいなブースつくったらいいと思うんです。そこで紹介できるような機会ができたらというふうなことを今、思いました。

○議長

ありがとうございます。

私、こういう会議、何回かこう委員長をさせてもらうんですが、こんなにいっぱい意見が出るのは本当に初めてです。多分それだけいろんなところでこう活躍されている方が本当にここへ集っておられるんだなというのを今ちょっと本当にいい意味で驚きながら聞かせていただきました。

中身的には、恐らくいろんな案が出てきましたし、いろんな観点のことが出ているので、これをまさにまず夢は書かないといけないんですが、それと同時にできるところからどういうアプローチをするのかっていうのを、うまくつくっていけば、かなり高砂市独自のものができていけるんじゃないかなというふうに個人的に思います。

あと、もう1つ気になっている資料があって、資料2ですよ、多分、私、言ったん

ですが、打ち合わせのときに。行政的にも多分何かこう思いがあるでしょうと。委員の人ばかりじゃなくて、行政としての思いも言ったらどうですかと。多分いろんなかわりを今までされてきて、それが1つはこういう計画みたいな感じの表現で資料2ができていうふうにご理解いただいて、少し説明をしていただいたほうがいいでしょうね。どうですか、事務局のほうは。これ何かせっかくなので、これは1つひな形なんですけど、多分そこに盛り込まれているのは、恐らく行政としての思いもあるんじゃないかなと思うんですが、いや、そこまで考えてないよと言うんやったら別にいいのですけど、どうですか。

○事務局

先ほど委員のほうから言われたように、体育協会につきましても高砂マラソンを何とかうまく活用してっていうのがありまして、それにスポーツ推進委員会、スポーツクラブ21、スポーツ少年団、体育協会、この4団体が一緒になって盛り上がりたい、スポーツを盛り上げていこうということも考えております。

○議長

特にいいですか。つけていただいとるので、そこら辺は多分この後、議論する、参照するところがないので、という程度なんです。

私もじゃあちょっと私のほうで打ち合わせと言うか、思いを伺ったときの私なりの行政の理解を私なりののですが、ちょっとかわりに。

いいなと思ったのが、今日の先ほど委員も言われた、この高砂マラソンの記事ありますよね。それでそこにメダルのちょうどでき上がったときに打ち合わせをさせてもらったので見たんですが、この竜山石のこうメダルをつくったんだというような話ですね。

1つは、そういう意味では地域づくりとか、自分たちのまちのイベントだっていうふうなことを前面に出したいし、そういう位置づけにしたいというふうな思いがあるというふうなことは1つ伺いました。

それと同時に、今日の議論にもあるんですが、多分スポーツっていうふうなのが苦手な人にとってはちょっと敷居が高いというようなお話がたくさん出てきたんですが、そういう意味でこの課は文化スポーツ課と。合っていますよね。

あまりないんですよ、正直なところ、こういう名称を。

厳密に言えば、スポーツも文化なので、ちょっと違和感がある並びではあるんですが、多分1つはスポーツ的じゃない文化活動ですよ、それとスポーツっていうふうなものが両方1つ大人も子どもも学びとして、両方セットで担当していますっていうふうなところは多分、市としての思いがあるんじゃないですかっていうお話はさせていただいたところですよ。もう最近はどんどんこのスポーツだけに特化して、スポーツ課とかね、これはもう市の特徴なので、いいとか悪いとかじゃないんですが、もう完全にスポーツはスポーツで文化は文化っていうふうに分けて、大きい市になればなるほどしているわけなんですけど、むしろここは両方を1つのセクションでやっているっていうことは、両方をマッチングする可能性もあるし、そういうふうな方向もこう実際には可能性としてはあるんじゃないかなとも思ったりもしています。そこら辺が多分、高砂の特徴ですかねというような会話をこう、ちょっと前回したもので。

それで、私なりにちょっとだけ一、二分ですが、ご議論いただいた中で、多分、多くの方が共通されているのは、やっぱりいろんな意味で本物をこう体験させてあげる必要があるなと。

それは健康的なことであっても競技的なことであってもそうなんですけど、それにふれるというふうなものは大人にとっても子どもにとっても意味があるよっていうことは、それを何とかうまく位置づけていきたいなというふうなことは1点あると思います。

ただし、これもご議論ありましたが、そういう経験は非日常なんです。

結局、問題は非日常で終わらないために、旅行もそうだし、いろんな試合もそうなんですけど、そこはみんな盛り上がるんですが、その後、人間ってなかなか難しい。それを日常にどうつなげていくかっていうところがすべて。

大人も日ごろやってないけど、何か何だかんだぶつぶつ言いながら、何か町内の何とか大会だったら出て、それでまたお酒飲んで盛り上がって、それで1年間しないというね、形が多いんですが。

じゃあ、今度日常にうまくつなげていくシステムをどうするかという中で、やっぱり定期的に、毎週とは言わんでもいいかね、先ほど言った、あるどっかの拠点でやっているよという情報発信だとか、それが月1でもいいというご議論もありましたが。

あと、今度は一方で、委員も言っていましたが、指導者っていう、正直プロがしゃべっていることっていうのは、専門家はむちゃなことは言いません。絶対に。かつてやっていたかもしれないけど、しゃべるときは丁寧な理に合ったことを言うんですが、今度それを聞いても結局日常ではまたいつものごとくちょっと矛盾したようなことが行われていたら、結局のところ、それが不整合なので、がっかりもしたり離れていったりする。そう考えたら、まさに非日常の力をかりて、今度、日常の整備もしていかなければいけないというあたりが非常に重要になってくるのかなというふうにはこう思うところです。

あとは、もう1点、恐らくスポーツを普及していくというのは、もう間違いないんですが、これも議論が出ていましたが、どんなターゲットの人にどんなふうな状況になってほしいのかなっていうのが、子どもはたくさんやっているように見えるけど、多分、学校のね、体育の中でもそれは二極化って。興味ない子もいっぱいいると。じゃあそこにはどういうアプローチが必要なのかって。

している子にはしている子なりのまたさらに刺激をする与え方はどうしてあげたらいいか。

高齢者も、あるいは壮年もそうなんですけど、今やっている人に対してもっとこう刺激的に動いてもらうためにどうするのか。

そのために多分、指導的な形の位置づけもありますよという道づくりも必要だし、あるいは先ほど出た、一番しない世代をどうするのか。じゃあそこは親子っていうくくりでのアプローチもあるだろうし、それぞれターゲットを明確にして、それぞれの人がどんなふうに多分動いてほしいのかっていうことを明確に最初のほうで計画でうたっていくことが、そういう意味ではこういうふうな子どもを育てたいという共通理解をとという言葉もあったんですが、多分こういう大人でスポーツに関してはあってほしいとかっていうのも含めて、きれいなスポーツを、僕は嫌いなんですけど、人口の何%、50%が週に1回の運動をと、そんな数値で人間のスポーツの営みをこう、それも大事なことなんですけどね。だけでもっと中身の実際どんな人がスポーツでいっぱい喜んで、あるいは動いてほしいのかっていうあたりが、この資料2でいきましたら、多分、第1章に書くようなことなんです。そのあたりをまた事務局と相談して、素案はこれからつくるつもりなんですけど、実際にスポーツってどんなふうに、そうですね、そういう意味では3章ぐらいですかね、基本理念って書いていますが。1章はよくある位置づけは何年間ぐらいの目標を目指しますよみたいなのを書くのが1章です。

もうこれは定番と言ったらちょっと失礼なんですけど、大体、行政としてつくる場合に、こういう体裁を整えなきゃいけないので、こんなふうな形を原案として出してくださっているとご理解ください。

2章は、今日まさに出たような、今の現状とか課題っていうようなものをどんなふうにとらえますかっていうことで、このソフト分析等での共通理解したことがここに入ってくるかなと。

それを踏まえて、どんなふうな方向で行きたいかなみたいなのが3章で、4章は具体

的にもうちょっと、来年からどうしますっていうほどではないんですが、もうちょっと夢に向かって、これは私は全然ここの部分にはまだ議論はかかわってないので、1つのひな形として事務局が出していただいたものが基本施策1、基本施策2とかというふうに書いて、それを先ほど課長も言っていました、市民が一体となったって、こう市民全体でこう、やっていきたいよというふうな形で、ざっと流れを示していただいているというふうにご理解いただけたらと思います。

かなりいろんなご意見も出たので、今日それを整理しながらまた次回につなげたいのですが、最後にまだもうちょっと言い忘れたみたいなことがありましたら、遠慮なく言っていただけたらと思うんですが、いかがですかね。

大体SWOTの中のものも表現はいろいろだったんですが、出てきたかなという。

ちょっと私、1個だけ気になるのが、弱みの競技っていうところ、右の一番のところを見ていただけますか。高砂は競技スポーツの子ども、青少年は強いのは有名なんですが、そこ、これは事実なのかどうなのか。スポーツから引退すると競技から離れる傾向がある。スポーツ燃え尽き症候群増。少年時からの活動加熱とか、そのあたり事実とどうか、こういうふうなことがどんなふうなとらえをしているのかっていうあたりは、もうそれは一個人の意見でいいので、見えているところとか、先ほど多分、委員がそのあたりの陸上に関してはそうじゃないのかなとおっしゃっていましたが、学校の先生方とか、あと日ごろ陸上とかも含めた、あと柔道とか、私もソフトボールの関係者ですが、もうすごく熱心で、そのあたりはどんな感じですか。それぞれのお立場からの自由なご意見でいいんですが。

○委員

いいですか。

○議長

はい。

○委員

ちょっと違った視点なんですけど、中学の陸上部員が何か陸上をしている団体の卒業生の中学生と中学で同じになって、その子たちが強過ぎるから、もう陸上はちょっと楽しくないとかいうようなことを言ってたんですね。それがその弊害のうちの1つなのかな。

○議長

はい、何となく。

○委員

何か指導者にとったら本当に子どものことを考えているのか、自分のエゴでやっているのかわからないんですけど、指導者の目的と親の思い、子どもに強くなってほしいっていう思い。

ただ、将来のことを考えたら絶対よくないのわかっているけど、だれもとめられないっていう状況を変えないと、この状況は変わらないのかなと。だから学校とか、そういう場で保護者を含めたそういう発育発達の指導とか絶対要るんじゃないかなと。だれも知らないの、そこを何とかしないとこれが解決しないのかなと。ほかの市であるかどうかかわからないんですけど。

○議長

私も少なからずこう同じような一般論ですけどね、感覚は持っている人間なので、すごくわかる部分は。

もう1つは、学校の立場からすれば、一番しんどい今ご時世の運動部活動になってきているのかなとも私は思うんですが、もし違っていたら、先生、またあれなんですけど。一方では、やっぱり熱心で、でも学校としてのある程度の枠組みが学校教育としての

運動部活動っていうのがありつつ、でもそこにスポーツのどんどん上昇志向が絡み取られていっちゃって、学校の先生方も非常にしんどい位置づけなんではないかなというのが一般論なんです。

でも、そのあたり変えていくのは大変なことで、そういう意味でこういう事実が、いっぱい実際にあるのかなっていうのであれば、そんな部分も入れていかねばならないかなとも思ったもんで、ちょっと話を出させてもらったんですが。

○委員

中学校でよく文科省を筆頭に、勝利至上主義に走らない志向をというふうなことで、ずっと言われます。

それはどの指導者もわかっていることなんですけども、やはり生徒の能力を1つでも2つでも上げてやろうと思うのが指導者の気持ちなんで、そのあたり一部で偏った全国的であったり、もう県内見ても、ちょっとそこまでやり過ぎやろうというふうなところもあるにはあります。それが全体がそうだというようなことは私が見る限りない。

小学校のクラブ活動においても、周りの全然やってないところから見たら、そら過激に映ったりとかするようなどこはあると思うんですけど。

文化的なこと、ちょっと話変わりますけどね、吹奏楽部などは、朝から晩まで日曜日とか土曜日などもするんですよね。休み中ね。

それがあある地域に行ったら、もう2時間やったら2時間でしないとか。そこから見たら異常に映るだろうと思うし、逆に何でそんなしないのだろうなど。上位になれなかったら子どもたちおもしろいことないのではないかという、そういう考え方もいろいろあると思うんでね。

○議長

わかりました。

それでは、今日のご意見をいただきながら、年明けには少しずつ、この計画の策定あたりに具体的に文言の検討とか、中身の検討に入っていきたいと思います。

じゃあ、今後のスケジュールについてということで、その他事項の説明をお願いします。

○事務局

資料3をお願いいたします。

平成24年度から平成26年度高砂スポーツ推進計画策定スケジュール（平成25年12月修正）の資料をお願いいたします。

平成25年度から平成26年度、高砂市スポーツ推進計画策定スケジュール（案）でございます。第1回の検討会議においてお配りいたしましたスケジュール（案）との変更点をご説明いたします。

以前お配りをしました資料では、検討会議の開催月を第2回目が9月、第3回目が11月を予定でお示しておりましたが、実際に開催した月が、第2回目が10月、第3回目が12月に行いましたので、そこを修正しております。

また、アンケート調査の調整時期を8月から1月までに設定しておりましたが、実際は8月から9月までに調整し、第2回目の検討会議でアンケート結果をお配りいたしましたので、その部分を修正しております。

また、パブリック・コメントについてですが、当初2月に実施する予定で計画していましたが、パブリック・コメントまでもうしばらく検討会議を開催して、素案の最終確認をする必要があると考えております。

そこで、5月の検討会議で素案完成という形にさせていただきまして、6月にパブリック・コメントを実施したいと思っておりますので、そこを修正しております。

以上が修正箇所でございます。

○議長

ありがとうございました。

今お聞きいただいておりますが、年明けに、2月に検討会議④、4回目がありまして、それでさらに3か月置いて5月の時点で⑤で、大体ここであと2回の審議を経て、計画の大枠をつくり上げようというふうな予定になっております。

次、2月まで、ぜひ今日資料2で今、配付しましたように、いろんな議論を最終的にはきれいな言葉等で、あと思いをできるだけ組み入れながら、こんなような感じの章立てと、あと体裁のものが計画というふうになってきます。

また、お暇なことはないと思うんですが、お時間あるときに、ネットでも、ちょっと見ていただいたら、今こういうスポーツ推進計画っていうのはどこの市町も、当然の上には高砂の上は県なので、県のものがこうなっておるんだとか、ほかの市でこうなっているんだとかっていうのをちょっと見ていただけたら、意見は多分どこでも一緒だっていうふうなこともありつつ、ここはちょっと何か特徴あるような作り方しているとか、そんなことが見えてくると思いますので、またお時間がどっかあるときに、軽い感じで、ネットでスポーツ推進計画を、加古川市さん、あと播磨町さんとか、つくっておりますので、見ていただけたら少し議論が具体的に進むんじゃないかなと思いますので、よろしくをお願いします。

2月の折には、もう当然この場でこういう文書を読んでっていうのは無理なので、極力できるだけ早い時期に、事前に資料をお届けして、それを読んでいただいて参加。こういうふうな今まで議論したことが入っているのかどうかあたりを検討いただくようになろうかと思っておりますので、ご了承ください。

何か質問ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、最後に次回開催予定日ですが、これについて委員の皆さんとちょっと調整をしたいのですが、遅過ぎるとだめなので、2月上旬で、あと事務局と調整をかけるということで、よろしいですか。

○事務局

そうですね。

○議長

可能な限り全員の方が参加できる日程っていうふうな形で決定をしたいと思います。

それでは、以上で私のほうは任されたものは終わりなんですが、事務局のほうにお返しします。

○事務局

それでは、最後に健康文化部長から閉会のあいさつをいたします。

(健康文化部長あいさつ)

○議長

お疲れさまでした。

○事務局

それでは、これにて散会いたします。どうもありがとうございました。

(午後 8時42分 閉会)